

施政方針

平成31年枕崎市議会第1回定例会が3月1日招集され、前田祝成市長が平成31年度の市政運営についての施政方針演説を行いました。その一部を抜粋して紹介します。



施政方針演説をする前田市長

私は、平成の最終年の1年前、昨年の1月に枕崎市長に就任し、この1年、市政運営に奔走してまいりました。「産業競争力の向上」「子育て支援」「コミュニティデザイン」の再構築」という三つの約束を中心に据え、まずは本市の現状の正確な把握、そしてその三つの約束を実現するための施策の実施に取り掛かりました。第6次枕崎市総合振興計画や平成31年度を最終年度とする枕崎市地方創生総合戦略の目標に沿って既に進行中の事業、メニューに包含されるものも含め、この三つの約束を果たすための施策の準備、計画、実施に向けた取り組みを行いました。

産業競争力の向上

産業競争力の向上について、特定第3種漁港の枕崎港を持つ本市の特徴・強みを發揮するために漁港・漁場の整

備は欠かせません。水産庁の「浜の活力再生交付金」を活用した枕崎水産加工業協同組合の残さい処理施設整備事業の化成工場は本年8月供用開始予定であり、新年度は同じく「浜の活力再生交付金」を活用し、枕崎市漁業協同組合総合加工場における「カツオのたたき」生産工程の塩化カルシウムブライン浸漬装置整備に取り組みます。今後も鹿児島県、水産庁、漁港漁場協会など関係団体との関係を密にし、「枕崎漁港高度衛生管理基本計画」に基づく漁港施設の整備・機能強化、浜の賑わい創出に取り組みます。

らにトップセールスを進めていき販路拡大を進めます。ふるさと応援寄附については、返礼事業開始以降、年々大きな伸びを示しており、本市のまちづくり財源の確保のみならず、特産品等の販売促進等、地場産業の振興に大いに貢献しております。新年度も寄附していただく方の裾野を広げていく取り組みをさらに強化していくとともに、ふるさと納税制度のPR機能としての有用性を活用し、本市の特産品の魅力を発信していくことで、産業競争力の向上、地域の活性化につなげてまいります。

子育て支援

教育・子育てこそ未来の枕崎をデザインする上で最も重要なテーマです。昨年11月に実施した「市長と語る会」では、子育て・教育をテーマの中心に置き市民の皆さんと議論を深めました。子育て世代の皆さんの教育に対する真剣さを感じたと同時に、本市の教育環境、特に学習面における充実した教育も確認できました。学校再編についても多くの意見をいただきましたが、現状の4小4中の体制の強みを再認識したところで、また、人口減少、少子化に伴う部活動等の話題もありましたが、学習面の強みを生かしつつ、運動系、文化系とも課外活動の環境充実を図っ

ていくことが喫緊の課題になっております。教育環境については、国の交付金決定を受けて、平成30年度と新年度の両年で小中学校の空調設備の設置を進めてまいります。2020年度から導入される小中学校のプログラミング教育に向けて、各小中学校の教育用パソコンをタブレットに更新しICT教育の充実を図ります。また、学校給食費の負担軽減への取り組みとして、新年度から、就学援助家庭への給食費の助成割合を80パーセントから100パーセントへ拡大します。

たSDGs(持続可能な開発目標)の17のグローバル目標、169のターゲット(達成目標)は2030年をゴールとした地球上の開発目標です。環境問題に限らず、さまざまな分野で持続可能な開発目標を示したものです。新年度に最終年度を迎える枕崎市地方創生総合戦略の次期計画はこのSDGsを活用して立案してまいります。SDGsの基本理念に「誰一人取り残さない」という考えがあります。全ての市民を、一人として取り残さない、平成の次の、新しい時代の新たな地方創生総合戦略を立案、実行してまいります。

市役所職員の意識改革

市役所職員の意識改革は私にとって継続した大きなテーマです。事あるごとに5Sの徹底ということを申し上げておりますが、さらに今年はスピードのSも加えて、仕事の質を高めてまいります。職員にとつての最優先事項は市民の笑顔です。単に市民の困り事を事務的に解決するのではなく、必ずその先に市民の笑顔が生まれるような、AIにもロボットにもできない、市役所職員にしかできない市民サービスに努めます。市民の笑顔を私たちのモチベーションに1年間しっかりと仕事をしたいといたします。

りました。昨年7月に施行した「枕崎市健康づくり推進条例」は市民の健康づくりに市民、行政、医療機関、事業所、地域団体等が一丸となって取り組むものです。今年脳卒中死亡率の高い本県の中でもさらに高い本市にとつて長年の課題である「高血圧対策を鹿児島大学、本市医師会などの協力をいただき実施します。昨年開始したソーシャル・マーケティングを活用した特定健診の受診勧奨事業と合わせて市民の健康維持に注力し、医療費の軽減、市民の健康寿命延伸にさらに努めます。

りました。昨年7月に施行した「枕崎市健康づくり推進条例」は市民の健康づくりに市民、行政、医療機関、事業所、地域団体等が一丸となって取り組むものです。今年脳卒中死亡率の高い本県の中でもさらに高い本市にとつて長年の課題である「高血圧対策を鹿児島大学、本市医師会などの協力をいただき実施します。昨年開始したソーシャル・マーケティングを活用した特定健診の受診勧奨事業と合わせて市民の健康維持に注力し、医療費の軽減、市民の健康寿命延伸にさらに努めます。

2020年10月には「燃ゆる感動かごしま国体」が開催され、本市では「なぎなた競技」が行われます。3月3日の第60回都道府県対抗なぎなた大会ミニ競技会、5月の第60回都道府県対抗なぎなた大会など全国各地からの選手団、競技役員を迎えての大会も開催されます。いずれの大会も市民ボランティアを含め全市体制で温かなおもてなしで選手団、競技役員、観客の皆さまをお迎えします。

昨年から検討を重ねてきた、高齢者や障害者等を対象にしたタクシー利用に係る運賃助成制度を本年10月から開始します。当初は、高齢者、障害者等に気軽に外出していただき健康増進や、外出の機会を増やすことを目指します。さらに、事業者の協力をいただきタクシーの利用状況を検証して、将来のデマンド型乗合タクシーの仕組みづくりにつなげてまいります。

コミュニティデザインの再構築

さきの「市長と語る会」のもう一つのテーマは健康づくりでした。昨年は国民健康保険の税率改定で市民の皆さんにご負担をお願いすることにな

健康づくり、人の動きを活

SDGsの推進

2015年国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の17のグローバル目標、169のターゲット(達成目標)は2030年をゴールとした地球上の開発目標です。環境問題に限らず、さまざまな分野で持続可能な開発目標を示したものです。新年度に最終年度を迎える枕崎市地方創生総合戦略の次期計画はこのSDGsを活用して立案してまいります。SDGsの基本理念に「誰一人取り残さない」という考えがあります。全ての市民を、一人として取り残さない、平成の次の、新しい時代の新たな地方創生総合戦略を立案、実行してまいります。

市制施行70周年記念事業

今年には市制施行70周年を迎えます。9月1日の市制施行記念日の70周年記念式典を中心に「生命(いのち)」をテーマに記念事業を進めてまいります。7月21日から9月16日までの58日間の日程で第2回枕崎国際芸術賞展を開催します。今回も日本画家の千住博氏をはじめ国際的な審査員による、国内外から若手作家を掘り起こす注目度の高い展覧会となります。恒例のさつま黒潮きばらん海枕崎みなと祭

※施政方針の全文は、市ホームページに掲載しています。【市長の部屋】施政方針↓平成31年度施政方針